

# 「9月入学」の拙速な導入ではなく 子どもたちの心身のケアと学びの保障を

## 府職の友 本庁ニュース

発行  
大阪府職労  
内線3746

新型コロナウイルスの感染拡大で、多くの学校で再開が見通せないもと、急浮上した学校の「9月入学」案について、安倍首相は「様々な要素を勘案しながら前広(まえびろ)に判断していきたい」と述べており、これを受けて政府は6月上旬には方向性を示す予定であると報道されています。

9月入学は多面的な検討が必要なものですが、学校以外の多くの制度も変更することになり、社会に大きな負荷がかかる問題です。

「9月入学」を求める声の背景には、新型コロナウイルス感染拡大に伴う学校の休校措置の拡大・延長による、学習の遅れや格差の拡大、仲間との豊かな学校生活が奪われ

ていることへの不安、高校・大学入試への心配等の切実な課題があります。しかし、「9月入学」導入には、幼児教育・保育から高等教育までのすべての段階における教育と社会のあり方全般にかかわる多くの重要な課題があります。

全面的な教育課程の再編成が必要となると同時に、学校と連携した地域や様々な教育関係機関の計画の見直しをおこなうことも

必要で、社会に大きな影響を及ぼします。十分な議論と準備をおこなわないまま「9月入学」を拙速に導入することは、子どもや保護者、学校関係者に大きな負担を押しつけるものとなります。

「9月入学」導入の議論のために労力や予算をかけるのではなく、外出はしないでしょか。

一人ひとりの子どもたちの声に耳を傾け、不安な気持ちや悩みを受けとめるためにも、ゆとりある安心安全な学校生活に必要な教職員加配や教室確保等による少人数授業の実施等の環境を整え、学びを保障することが求められています。

現在の厳しい状況のもと、子どもや若者の教育を受ける権利や豊かに成長できる条件を、可能な限り保障することは、社会の大きな責任です。

受験や就職への見通しも必要です。そうしたことを、地に足のついたやり方で、一つひとつ解決していくことこそ大切ではないでしょうか。

水曜日は  
1-1 職業ステーション  
自分の健康と家族のために  
定時に帰りますよ!

